鐵輪 宮崎精鋼株式会社　名古屋市中川区丸米町一丁目1番地　☎052-361-2191　令和6年2月号

社長年頭挨拶

新年のあいさつの前に、この度の令和６年能登半島地震で被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、今年の正月は雨の日もありましたが、気温としては落ち着いた穏やかなお正月だったと思います。昨年５月より、新型コロナの分類がインフルエンザと同様の５類に切り替えられて以降、ポストコロナの中、帰省や初詣など、そして海外からのインバウンド観光客は足元の円安の効果も相まって、コロナ前の人出に戻り、各所で賑わいが戻ってきたようです。それぞれ皆さんも良い正月を過ごされた事と思います。

2023年を振り返りますと、『混乱・回復』の年であったと思います。昨年10月から始まった中東情勢の緊迫化で、戦闘により２か月間で２万人以上の犠牲者が出たと言われております。また、ロシアのウクライナ侵攻についても停戦の目処が立たず２年が経過しようとしています。一番心苦しいのは、尊い命が毎日のように失われることですが、その他影響として当事国のみならず、世界的な資源高・エネルギーコストの上昇含め物価高や、インフレを抑え込むための欧米での利上げ策に伴い、為替は相変わらず円安水準が継続しています。

自動車業界ではトヨタ殿がいち早く半導体不足から抜け出し回復、その他自動車メーカーでは今もなお半導体不足の影響が残っているものの復調の兆しが出てきました。一方で、中国及び東南アジアでの販売不振や、電動化の進展については、以前の勢いからは変化はあるものの引き続き注視すべき課題となっています。

鉄鋼業界については、2023年の粗鋼生産量は年産で8810万トンレベル（前年比微増）、24年も日本国内の需要回復が期待されるものの、中国の景気持ち直し含め、世界経済の回復には不透明感があり、同水準または微増の粗鋼生産が見込まれています。

当社の2023年の事業環境を振り返りますと、ポストコロナの中、国内自動車生産の増加はあったものの、中国における日本車および部品メーカーの低迷などもあり、前年対比で微増にとどまりました。製品別ではトヨタ殿の比率が高く、自動車生産までサプライチェーンの短いCH鋼線がプラスとなり、逆に中国向けやその他自動車メーカー向け、さらには委託加工のある磨棒については若干のマイナス傾向、鋼管とスラグについては横ばいから微増となりました。

今年の事業環境の見通しとしては、回復は期待できるものの、中国・東南アジアでの日系自動車メーカーの販売不調など数量的な押し下げ要因があり、継続課題として原燃料・資材の高騰は引き続き厳しい状況となっています。

かかる中、2024年の基本方針は、一昨年６月よりスタートした中期経営計画CIF30（Challenge our Innovative Future 2030）の３つの基本方針に沿い、『より強い会社』となるため具体的行動と成果に拘った年にしていきたいと思います。

MIYAZAKI

Pick upニュース（1～2月）　石川県 能登半島でM7.6の地震が発生　「令和6年能登半島地震」と命名（1月1日）